

小児脳死下臓器提供における看護ケアに関する研究

研究分担者 日沼 千尋 東京女子医科大学 看護学部 非常勤嘱託

研究要旨：

小児の脳死下臓器提供がわずかに増加しているものの、依然として少ない現状がある。本研究は臓器提供の可能性がある小児からの提供の機会を有効にいくために、医療現場における臓器提供の一連の過程における小児の独自の課題を抽出し、改善に向けた検討をするとともに、学校教育、社会教育における教育、啓発プログラムを検討する。

日沼の分担においては、小児の臓器提供における看護の現状と課題を把握し、脳死下臓器提供に至る子どもの看護に求められる知識、技術、看護体制をインタビュー調査から質的に明らかにし、教育プログラムに必要な要素を検討する。

A. 研究目的

① 小児の脳死臓器提供施設において対象の子どもと家族にかかわった関係者のインタビューから、家族が臓器提供の意志決定に至ったと考えられる要因、そこに関わった医療者の考えと行動、家族の反応を明らかにする。

② 上記から臓器を提供する子どもと家族に必要な支援・看護、看護職に必要な知識、能力、それを支える看護チームのあり方を明らかにする。

B. 研究方法

- ① インタビューデータの分析に基づく質的研究。
- ② インタビューはガイドに基づく半構成的インタビューとした。
- ③ 分析の視点は、臓器提供に至る過程で子どもと家族に行われた看護の内容と家族の反応を抽出し、脳死下臓器提供の際の看護の在り方と課題を検討する。分析結果は脳死下臓器提供をする子どもの看護の教育に活用する。
- ④ 対象は過去5年間に臓器提供をした15歳未満の子どもが入院しており、公表している9施設の研究目的の説明を受け、インタビューに同意した看護師、移植コーディネーター、医師、MSW、臨床心理士。
- ⑤ 倫理面への配慮は、インタビューデータはすべて匿名化し、データ保存するメディアはパスワードを設定した。研究への参加者には、研究目的と研究参加は自由意志によるものであることを説明して、書面への署名による承諾を得た。本研究は、東京女子医科大学倫理委員会の承認を得て実施した。

C. 研究結果

2019年度は、9施設のインタビュー調査を行った。現在データを分析中である。これまでの分析で分かってきたことは、脳死下臓器提供において行われている看護は、終末期の小児の看護と言われてきた内容とほぼ同じであること、一方、子どもから

の臓器の提供という事態に、ケアに当たる看護師は精神的な負担も大きく、医療チームとしての配慮が必要であること、経験の蓄積がないことから、手探りで看護せざるを得なく、教育プログラムの必要性が求められていることが分かった。

D. 考察
検討中
E. 結論
検討中

F. 健康危険情報
(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表
1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし
(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)
1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし